

旅客船の船員のための 群衆管理基本手引書



一般財団法人 海技振興センター

はじめに

旅客船は、貨物を運搬する商船とは違い、多数の乗客を乗せて航行する船舶ですので、衝突、座礁等の事故が発生した場合は、乗客の人命安全を確保することが最も重要です。

ここ最近では、海外において大型船の沈没事故が発生し、多数の旅客の人命が損なわれるという悲劇が起きています。これらの事故に共通するのは、これらの旅客船に乗り組む船長、船員が、事故が起きた際に乗客を適切に避難させることができなかった、あるいは、不十分であったということが大きな要因であったと言われております。

このような悲劇を繰り返さないためには、まずは事故を発生させないよう航行の安全を確保することが第一ですが、同時に、万が一事故が発生した場合、乗客の人命を守るためにどのように対応すべきか、常日頃から船員の教育訓練を適切に実施しておく必要があります。

特に、旅客船は、数多くの乗客を乗せていることから、個々の乗客に対するものだけでなく、乗客全員に対するもの、すなわち、乗客の方々全員を群衆(集団)として把握し対応することが、とりわけ必要不可欠になります。

この問題については、国際的にもあらためてその重要性が認識され、船員の訓練や資格等について定めている STCW 条約において、新たに旅客船の群衆管理訓練を適切に実施するよう規定されたところです。

このようなことを踏まえ、本手引書では、STCW 条約に定められた内容も入れた上で、重大事故による緊急事態が発生した際に、乗客全員の人命を助けるために、乗客という群衆に対し乗り組み船員がどのように対応すべきかについて、その基本となるものをわかりやすく示しました。

本手引書を踏まえ、旅客船運航会社の方々、事故に備えた乗客の避難訓練等を実施する際の参考としていただき、あるいは、船長をはじめ乗り組み船員が、不幸にも事故が発生した場合の乗客避難誘導等に適切に対応するための参考としていただくことにより、乗客の人命安全が成就の一助になれば幸いです。

また、本手引書は貨物船においても十分に参考になると思われますので、貨物船の乗り組み船員の方々にも有効活用されることを望むものです。

第1部 群衆管理のための基礎知識

1-1 非常事態4
 1-2 非常事態における人の心理・人の行動7
 1-3 非常事態における群衆パニックの恐ろしさ9

第2部 群衆管理のための基本的な考え方

2-1 非常事態発生の可能性のある場の熟知11
 2-2 非常事態における対応手順12
 2-3 非常事態における人員の最大限の活用12
 2-4 非常事態への初動対応12
 2-5 非常事態におけるリーダーシップ技能(スキル)13
 2-6 非常事態におけるストレス管理13
 2-7 非常事態における人々の反応についての留意事項14
 2-8 非常事態における効果的なコミュニケーションの確立・維持15

第3部 船員にとって必要な群衆管理のための知識・技能

3-1 基本的な知識17
 3-2 具体的な技能18

第4部 群衆パニックへの対応

4-1 群衆パニックを発生させないための対応20
 4-2 群衆パニックが発生した場合の対応21

おわりに 22

参考資料

「大型旅客線沈没事故で生き延びるための具体的な対処法(抜粋)」
 一般社団法人日本防災教育訓練センター代表理事 サニーカミヤ氏著

第 1 部

群衆管理のための基礎知識

旅客船の非常事態が起きた際に、乗客全員を適切に避難させ、その人命を守るためには、船員は乗客全員に対する的確な群衆管理を行う必要がありますが、この群衆管理を的確に実施することは難しいものです。

とはいえ、難しいと言ってこれを放置することはできません。

では、どうしたら的確な群衆管理ができるのでしょうか。

そのためには、まず非常事態における人間の心理や行動について、基礎的なことを知っておく必要があります。

なぜなら、それらを知らなければ、非常事態が起こったときの的確な対応ができず、乗客の人命を守ることができなくなってしまう恐れがあるからです。

このため、非常事態での人間の心理や行動についてから説明を始めることにします。

1-1 非常事態

本手引書で述べる「非常事態」とは、旅客船において、乗船している乗客の人命に関わるような事態が発生した場合を言います。

それでは、非常事態としては、どのようなものが想定されるのでしょうか。

非常事態は、基本的には、その船舶の航海中あるいは停泊中における何らかの事故から発生します。

これらの事故には大小様々のものがありますが、本手引書では、旅客船に乗船している乗客全員の人命に関わるような大事故、すなわち、およそ次のような事故が起きた場合を念頭において、説明していくことにします。

座礁



衝突



火災



沈没



このような非常事態が起きると、船員・乗客の側それぞれに、次のような状況となる可能性があります。これが非常事態での最悪な状況であり、

船員サイド



正しい情報が入らない



連絡系統が混乱する



適切な判断ができない



指揮命令系統が混乱する



その結果、乗客に対する的確な避難誘導ができなくなる



このような状況になったら乗客の人命を守ることは不可能になるので、このような状況になることを絶対に避けなければなりません。

乗客サイド



個々人のパニックが発生する



それが最終的に群衆パニックの発生につながる



制御不能となる

1-2 非常事態における人の心理・人の行動

非常事態が起きると、一般的に人間はどのような心理状態となり、どのように行動するのでしょうか。個人と群衆では、お互いに関係しつつも、その様には違いがあります。

① 個人の場合

個人心理の特徴

恐怖感の発生	命の危険を感じて恐怖感が起きる。
自己保存意識の発生	「自分だけは助かりたい」という感情が起きる。
逃走あるいは隠れの衝動	「一刻も早く、この場を逃げ出したい」あるいは、「安全な場所に身を隠したい」という衝動が起きる。
混乱	どうしてよいか、わからないと混乱する。

個人行動の特徴

非計画的	いわゆる「右往左往する」とか「やみくもに動く」という行動をとる。
単独	自己保存意識から、他者のことを考えずに単独で逃走する、あるいは、身を隠す行動をとる。
独善	自己独自の判断(誤まった判断が多い)による身勝手な行動をとる。
非主体的	いわゆる、付和雷同的に他人の行動に追従する。

② 群衆の場合

群衆心理の特徴

不正確な情報の 伝搬・拡散	群衆では、最初は正確な情報であっても、伝達される間に不正確な情報となって広がっていく可能性が高い。
ネガティブ情報の 伝搬・拡散	「こうすれば助かる」等の良い、前向きな情報よりも、「もう助からない」等の最悪な、あるいは絶望的な情報の方が伝搬、拡散しやすい。
心理の固定化	群衆では、考え方が一度確定してしまうと、変更することは個人の場合以上に難しい。

群衆行動の特徴

統一性の欠如	指揮命令に従った統一的な行動とはならず、ばらばらで方向性のない行動となる。あるいは、いくつかの小さな集団ができ、それぞれ勝手な行動をとる。
コミュニケーション不能	興奮、悲鳴、絶叫等により、外部からの指揮命令、助言等を受け入れることができない状況となり、群衆内でも的確な話し合い等ができなくなる。
パニックによる 暴走の発生	何らかのきっかけにより、群衆が突然、一斉に、一方的かつ悪い方向に動き出し、これを止めることが極めて困難となる。

③ 個人と群衆の違い

個人：制御することは比較的容易

群衆：制御することは難しく、制御するためのノウハウが必要

1-3 非常事態における群衆パニックの恐ろしさ

群衆心理と群衆行動の最悪のパターンが群衆パニックです。この群衆パニックが発生した場合は、もはや制御不能、手に負えない状況になり、群衆管理に完全に失敗したことになります。

もちろん、群衆パニックが発生した場合にも、後述するように、何らかの対応策はありますが、これを発生させないことが肝心であることは言うまでもありません。

よって、群衆管理において最大の目的は、「いかに群衆パニックを起こさないようにするか」であり、船員はこれを肝に銘じなければなりません。

① 群衆パニックの発生原因

群衆パニックは、基本的には個々人の恐怖感から起こります。すなわち、個々人の恐怖感が伝搬して群衆として一体化し、「このままでは死んでしまう、何とかしてこの場から逃げ出したい」という懸念が大きくなったときに、集団ヒステリー状態となり、盲目的に行動を起こす（暴走する）というのが、群衆パニックの端的な例です。

最も典型的な例としては、「劇場において地震が発生したとき、観客が出口に殺到し、出口が詰まってしまい避難できなくなった」というようなことや、「花火見物において爆発事故が発生し、群衆が逃げるために一斉に走り出し、それに巻き込まれて転倒したり、さらに将棋倒しとなったりして、多数の死傷者が出た」という事例があげられます。

② 群衆パニックの特徴

群衆パニックの特徴は、常日頃の個々人の良識（的確な判断、決められたことの遵守、他人に対する配慮等）が集団として欠落するため、その影響が極めて大きいものになるということです。

個人のパニックの場合は、個人である故、一般的にはその影響は少なくてもすむかもしれませんが、上記にあげた例のように、群衆という巨大なパワーが秩序を失っていわば暴走するため、極めて危険な状況となります。

また、群衆パニックは、ある行動から次の行動にどのように変化していくかを予測することも困難となります。すなわち、群衆として理性を失った無秩序な行動となるため、論理的な予測をすることが難しくなるということです。まさに「予想外の行動で、どうしようもなかった」となるわけです。

さらに加えて、群衆パニックは伝染性が強いということです。すなわち、群衆という大きな集団がパニックを起こすため、周りの個々人や小さな集団もそれに煽られてパニックを起こす可能性が高まります。

そして、その最大の特徴は、群衆パニックが発生したら、これを止めることは極めて困難になるということです。



第 2 部

群衆管理のための基本的な考え方

次に、第 2 部では、第 1 部で述べた基本的な事項を理解した上で、的確に群衆管理をできるようにするために、船舶の非常事態に限らず、いろいろなところでの非常事態について、共通的に知っておくべきこと、重要であることなどの基本的な考え方を以下に述べます。

2-1 非常事態発生の可能性のある場の熟知

当然のことですが、非常事態が起きる可能性のある場（広場、建物、列車、飛行機、船舶 等）については、事前にその状況を知っていなければ的確な群衆管理はできません。それぞれの場について、少なくとも次のようなことを知っておくことが必要です。

- 避難経路や脱出経路
- 避難や脱出の際に障害物となるものの位置
- 危険物の種類、それらの収納庫等の位置

2-2 非常事態における対応手順

非常事態に備えるためには、乗客の招集、避難誘導等の手順を確立し、これを熟知しなければなりません。そのためには、少なくとも次のようなことを行う必要があります。

- 非常事態における避難誘導等の対応手順を組織的・体系的に文書として作成すること。
- この対応手順を反復して練習・訓練することにより、対応手順に習熟すること。

2-3 非常事態における人員の最大限の活用

非常事態においては、乗り組み船員のすべてを最大限に活用する能力が必要となります。そのためには、少なくとも次のようなことを考慮する必要があります。

- 緊急時においては、利用可能な手段が制限される可能性があること。
- 必要な場合には、可能な限り直ちに人員と装置をフルに用いる必要性が生じること。

2-4 非常事態への初動対応

非常事態が発生した場合は、初動が肝心です。そのためには、少なくとも次のような能力が必要となります。

- 非常事態の発生に対し、最初に適切な判断を行い、かつ、その後の効果的な対応を図る能力が求められること。

2-5 非常事態におけるリーダーシップ技能 (スキル)

非常事態においては、先頭に立って乗客（船員も含め）を導く、指示する能力が必要になります。いわゆるリーダーシップ（スキル）です。そのためには、少なくとも次のような能力が必要です。

- 非常事態の間、手本となること。
- 非常事態に素早く行動するために必要な決定に集中すること。
- 乗客（船員も含め）に対し、動機づける（気持ちを高め誘導する）、勇気づける（励ます）、助けること。

2-6 非常事態におけるストレス管理

非常事態においては、人間として当然のことながら、ストレスが発生します。その強弱には個人差がありますが、ストレスは人間の行動などに大きな影響を及ぼします。そのためには、次のようなことを知っておくことが必要です。

- 人々や避難誘導する側の人員達について、過度のストレスの徴候の発生やその程度を見極めること。
- 非常事態によって生じるストレスが、個々人のパフォーマンスや、指示に基づいて行動する能力、手順に従う能力に影響を与えることを理解すること。

2-7 非常事態における人々の反応についての留意事項

非常事態においては、人間の心理・行動や反応を熟知して、乗客に対応する能力が必要となります。そのためには、少なくとも次のような乗客の一般的な反応パターンを知っておく必要があります。

- 人々が非常事態であることの実事を受け入れる前には、一般的にある程度の時間を要する場合があること。
- ある人々は、理性の正常なレベルの行動をしない、パニックになるかもしれないこと。
- 彼らの理解(悟る)能力が損なわれ、指示に対し非常事態でないときと同じように対応できなくなるかもしれないこと。
- 乗客は、一般的に、船舶が傾いているときには上の方に移動する傾向があること。
- 乗客は、家族とはなればなれとなった場合にパニック発生の可能性があること。

2-8 非常事態における効果的な コミュニケーションの確立・維持

非常事態においては、コミュニケーションを確立し維持する能力が必要になります。そのためには、少なくとも次のようなことを知っておく必要があります。

- 明確で簡潔な指示や報告が重要であること。
- 乗客や他の人員との情報交換やフィードバックを促進する必要があること。
- 甲板に波がかぶる状況を知らせることなど、非常事態の間、乗客やその他の人員に情報を提供する能力が必要であること。
- 乗客やその他の人員の国籍の言語や適切な言語を知っていること。
- 口頭での非常コミュニケーションができないときに、デモンストレーション、手信号、指示書の場所の注意喚起、招集場所、人命救助の方法、避難ルート等による様々な他の手段により、緊急時の間にコミュニケーションしなければならない可能性があり得ること。
- 非常事態における非常放送、指示、乗客救助のための言語が必要となること。

第 ③ 部

船員にとって必要な 群衆管理のための知識・技能

以上、第 2 部においては、的確な群衆管理のための一般的な考え方について述べました。

この第 3 部においては、上記の一般的な考え方とともに、船舶、特に旅客船における非常事態において、それに乗り組む船員が的確な群衆管理を行うために、少なくとも熟知しておかなければならない知識や、習熟しておかなければならない技能について、次のとおり示します。

常日頃から、旅客船における乗客の避難誘導等をはじめとする群衆管理訓練を計画・実施し、これにより、これらの知識や技能の習熟を目指し、乗客の人命を守るようにしなければなりません。

3-1 基本的な知識

緊急事態への的確な対応のためには、基本的に、次のようなことが必要です。

- 乗客がいつ、どこにいるか等、乗客の動静を知っておくこと。
- 乗客は、船舶が傾いているときには上の方に移動する傾向があることを知っておくこと。
- 避難誘導の計画、手順、指示事項を知っておくこと。
- 避難誘導のために使用できる機器類やこれに役立つ機器類を知っておくこと。
- 乗客招集を確認するための乗客リストを直ちに用いることができるようにしておくとともに、乗客招集のための緊急指示事項を知っておくこと。



3-2 具体的な技能

さらに、具体的に、次のような技能を持つことが必要です。

- 明確で安心感を与える指揮命令を行えること。
- 通路、階段、乗客通路において乗客を導くこと。
- 脱出や避難の際に、その妨げとなる障害物の位置等を熟知し、これらをクリアして脱出・避難させること。
- 乗客の居室、公共の場等、乗客がいると思われる場所を熟知し、その検索ができること。
- 障害者や補助が必要な乗客について、特別な注意を払って、乗客を船から降ろし、あるいは避難させること。
- 乗客の招集に関し、次のようなことができること。
 1. 指揮命令の継続
 2. パニックを減じる、回避できる手順の行使
 3. 避難乗客数の適切な確認
 4. 乗客に対する避難誘導のために可能な限り相応しい服装の徹底
 5. 乗客が正しくライフジャケットを着用しているかどうかチェックする能力

第 4 部

群衆パニックへの対応

最後に、非常事態において発生しやすい群衆パニックについて述べることにします。なぜなら、このようなパニックが起きれば最悪の事態、悲劇につながるので、何としてもその発生を阻止する必要があるからです。そのためには、これまで述べてきたことを熟知・習熟して的確な行動をとれば、群衆パニックの発生の回避につながるわけですが、あらためて、群衆パニックを起きないようにするための対応の基本を述べることにします。

なお、群衆パニックを起こさないようにすることが第一ですが、仮に群衆パニックが発生した場合の対応も知っておく必要があります。

併せて、それについても述べることにします。



4-1 群衆パニックを発生させないための対応

非常事態が起きた場合においては、まずもって、乗客に対する船長からの最初の第一声・スピーキングが最も重要になります。これを的確に行えば、群衆を落ち着かせることができ、群衆パニックの発生をほぼ回避させることができると言っても過言ではないでしょう。

このスピーキングは、次のことを考慮して行わなければなりませんので、是非覚えておいてください。

すなわち、簡潔、明確、安心感の付与、この3つの要素です。

具体的には、次のとおりです。

- 事故の状況を簡潔に説明する。
- 指示に従えば大丈夫である旨を明確に説明し、安心感を与える。
- 明確な指示を出す。

もちろん、その後の乗客への的確な指示、指揮命令、誘導等も重要であるのは当然ですが、この最初のスピーキングを的確に行うならば、乗客もその後の個々の指揮命令等に従うようになり、最終的にはパニックの回避につながることになるのです。

4-2 群衆パニックが発生した場合の対応

群衆パニックが発生した場合はどうすればよいのでしょうか。実際には、これを収めるのは極めて困難です。しかしながら、そのまま放置すればますます拡大し、最悪な事態になることから、これを放置するわけにはいきません。少なくとも次のようなことを行って、群衆パニックの沈静化に最大限の努力をするべきです。このためには、次のような対応を図るのが効果的と考えられます。

- 可能な限り多数の船員を集め、拡声器等でゆっくりと明確な指示等を繰り返し出す。
(注：威嚇、威圧的、強圧的な指示は船員もストレスが高まり、乗客のパニック状態を悪化させてしまう。)
- 場合によっては、大きな音を出して群衆の注意を引かせ、それを契機にパニック行動を止める。

以上のような方法が考えられますが、一度パニック状態になるとこれを収めることは極めて困難なので、これまで述べてきたことを踏まえて、群衆パニックを発生させないよう最大の努力を図ってください。

「おわりに」

以上、航海中の旅客船における非常事態の発生に備えるために、船員の皆様が知っておくべき事項を「群衆管理基本手引書」としてまとめてみました。船舶航行においては、非常事態が発生しないように船舶航行の安全を確保することが一番であることは言うまでもありません。しかしながら、仮に非常事態が発生した場合、とりわけ旅客船において非常事態が発生した場合には、乗客の人命を守ることが乗り組み船員にとって最大の使命となります。

本手引書は、船員の方々がこの使命を確実に果たすことができるようにするとの観点から、非常事態における人間の心理や行動をはじめとして、群衆管理の考え方、そのために船員が持つべき知識や技能等についてまとめたものです。

旅客船の船員の皆様におかれては、本手引書を踏まえ、あるいは参考として、旅客船における乗客の避難誘導訓練等を実施する際の一助にさせていただきたいと願っています。

また、本手引書は、貨物船に乗り組む船員の方々にとっても参考になるものであるものと思いますので、旅客船、貨物船を問わず、船舶の運航に携わる船員の皆様全員に読んでいただければ幸いです。

以上

●参考資料

「大型旅客船沈没事故で生き延びるための具体的な対処法」 (抜粋)

一般社団法人日本防災教育訓練センター代表理事 サニーカミヤ氏著

以下の内容は、一般社団法人日本防災教育訓練センター代表理事サニーカミヤ氏の執筆記事から抜粋した内容です。

その内容は、船員向けではなく、乗客向けのものですが、船員の皆様もこれを知っておけば、群衆管理の参考になるとと思いますので、同氏のご了解のもと、以下に掲載します。

なお、この内容は、あくまでもサニーカミヤ氏の知見によるものであり、これが絶対的に正しいとか、すべてこの通り、というようなことはありません。あくまでも一つの参考として紹介するものですので、念のため申し添えておきます。

(一般社団法人日本防災教育訓練センターのHP：<http://irescue.jp>)

サニーカミヤ氏のプロフィール (一部)

- ・元福岡市消防局レスキュー隊小隊長
- ・元ニューヨーク州救急隊員
- ・台風下の博多湾で起きた韓国籍貨物船事故で4名を救助し、内閣総理大臣表彰受賞。人命救助者数は1500名を超える

出航前

●どのような船に乗っても、個人用の救命具の置き場所を、必ず確認してください。

港間を移動するだけの短い距離を航行する時や、日帰り旅行、クルーズなど

でも、救命具がどこにあるか確認しておくことで、自分の命を守ることができます。

クルーズの場合、大型客船における標準安全訓練の一環として、まずは自分の救命胴衣が客室にあることを確認するよう求められます。必要があれば、幼児や子供用の救命胴衣があるかも確認しておきましょう。もし、ない場合は、すぐにクルーに伝えてください。また、あなたの部屋の近くに救命ボートがあるかも確認してください。その際、視界が悪くても、ボートまでの道順が、明示されているかどうか確認してください。飛行機の中にあるような、緊急用出口がわかるようなライト表示が一般的です。

個人用の救命具の装着方法と使用方法を読み、不明点はクルーに聞いてください。

もし、自分の母国語とは違う言葉をクルーが話すような船に乗って旅する場合は、緊急時に、直接あなたに指示を出してくれる人を見つけておいてください。大型客船への乗船前に、このような件についても明確にしておくとう安心です。

沈没しそうな場合

●避難シグナルなどを聞いてください。

標準的なシグナルは、7回短い警告音の後、1回長い警告音が鳴ります（そのようなシグナルでない場合もあるので注意してください）。

また、船長と、その他の船員から、すべての乗客と船員に対して、船内放送などで呼び掛けが行われるはずですが。

●救命胴衣を着用してください。

時間があれば、大型客船から脱出する前に救命胴衣を着用しておいてください。また、浮環などその他の救命道具があれば、それも使ってください。ただし、

その救命道具を手に入れるために時間を費やすことで、自分の命や他の人の命を危険にさらさないでください。救命胴衣を装着する際は、まず、自分が救命胴衣を着けてから、幼児、子供、ペットの救命胴衣を着けさせてください。

●指示に従ってください。

これが、一番大切な手順です。安全のために何をすればよいか分からない場合は、キャプテンまたは、クルーメンバーが、指示を出してくれます。

大型客船のクルーは、高度な救助訓練を受けており、安全のために何をすべきかを把握しています。誰も正しい指示を出してくれない場合は、自分で逃げ出すことを試みてください。

きちんとした大型客船では、集合場所が決められており、ここに全員が集まって避難を開始することになっています。集合場所にいく訓練を受けた場合は、万一の事態が起こったら、訓練どおりに行動してください。

指示が聞こえなかったり、理解できなかったりする場合は（自分の国の言葉でない場合など）、ひとつのことを心に留めておいてください。それは、船の上に行ってから、脱出することです。船の中央や内部にいと、パニックに陥ってしまうので賢明ではありません。

キャプテンから任務を与えられた場合、もしその指示に従えないと思われるれば、その旨をきちんとキャプテンに伝えてください。そうでなければ、出来る限り、その任務を遂行してください。

●落ち着いてください。パニックにならないでください。

ありふれたアドバイスではありますが、パニックになればなるほど、救命ボートに乗るまでの時間が長くなります。ある研究によると、パニックにならない人は、全体の15%だけで、実に70%が論理的に物を考えられなくなります。そして、残りの15%は、理性を失います。

このように、落ち着くということが、他の乗客に対応したり、自らが生き延びるために何をすべきか考えるために大切になってきます。周りの人がパニックになっている場合は、できるだけ落ち着かせてください。パニックになったままだと、行動が遅れて、避難できなくなる恐れがあります。

残念ながら、船上でパニックになると、多くの人々に迷惑をかけ、人々が押し合うため、船から脱出する前に、怪我をする人がでてきます。

パニックの正反対の状態とは、呆然とし、まったく反応できなくなる事だと認識しておいてください。

誰かが、恐怖で動けなくなっている時は、その人に向かって叫んでください。飛行機の客室乗務員が、乗客を燃え盛る飛行機から脱出させる時にも、この手法を使うよう訓練されているので、船にも応用できます。自分の呼吸を整えるようにしてください。ヨガやピラティス、その他類似のリラックス呼吸法を知っているならば、その呼吸法で、自らの気持ちを落ち着かせてください。

また、生き延びるため水に入ったとしても、このような呼吸をしてください。

●最短距離のルートではなく、最速ルートで脱出することを考えてください。

すばやく脱出することは、危険を伴う最短距離で脱出するよりも重要です。船が傾き始めたら、何かを掴み、まっすぐに立ってられるよう、そして、行きたい場所にたどりつけるよう何かを掴んでください。手すりや、パイプ、フック、ライトの装具などが挙げられます。

エレベーターは使用しないでください。火災から逃れる時にエレベーターを使うべきではないのと同様、電気で動いている物は、避けたほうが良いでしょう。

大型客船内のデッキエリアにいる場合は、投げ出されないよう、そして浮いている物にぶつからないように気をつけてください。大きなものに当たると、意識を失い、死んでしまうこともあります。

●デッキまで上がってこれたら、

緊急集合場所または一番近い救命ボートに向かいます。

今日の大型客船クルーズ便の多くでは、乗客が緊急時にどこに行けばよいかを把握できるよう、出港前に、安全のための訓練や、手順説明をおこなっています。もし、そのような訓練や説明が無い場合は、クルーが、乗客を船から退避させてくれるような場所に向かってください。

クルーの任務は、安全のために、まずは乗客を先に船から下ろすことなので、通常、クルーが最後に大型客船から脱出することになっています。

クルーが大型客船内にいるのに、自分も脱出しないでヒーローになろうとしないでください。自分自身と、愛する人が生き延びるチャンスをつぶさないよう、すべきことをしてください。このような緊急事態は、映画のようにはいきません。

●救命ボートを探してください。

一番良いのは、体が濡れていない状態で救命ボートに乗り込むことです。濡れてしまうと、低体温や低温ショック(以下を参照)のリスクが高まります。救命ボートが、既に展開されている場合は、状況に応じてクルーの指示に従い、一番良い場所に入り込む、もしくは飛び乗ってください。

救命ボートが無い場合は、浮輪や同様の浮き具を探し、水に投げ入れてください。水に入らなければならない状況になれば、生き延びる確率は、非常に低くなりますが、全く何もないよりは、浮き具を使うほうが良いでしょう。

船から飛び降りたり、船が傾いている場合は単純に下りたりしなければならぬ場合も考えられます。近くに救命ボートがある場合は、そこまで泳ぎ、腕を振って、注意をひくよう叫んでください。

もし、飛び降りなければならない場合は、必ず飛び降りる場所を目視してください。人や物、プロペラ、水面火災などがあることもあります。水面下に、ぶつかるものが無いこと等を確認してください。

理想的なのは、救命ボートに直接乗り込むことです。もし、それができない場合は、救命ボートにできるだけ近い場所に飛び込み、すぐにボートに乗り込めるようにしてください。

●救命ボートに乗ったら、指示に従い、落ち着いてください。

そして、救助を待ちます。

大型客船の快適さとは違って変わり、外洋で孤独に救助を待つことは、間違いなく脅威を感じると思います。しかし辛抱してください。救助は来ます。

救命ボートでは、慎重な割り当てをしてください。発煙筒はむやみに使わず、発煙筒を使う事で間違いなく救助者があなたのボートを確認できる時に使ってください。身を寄せ合って、暖をとってください。見張り番も設けてください。雨水を貯め、海水や尿は飲まないでください。負傷している場合は、出来る限りのケアをおこなってください。

気をしっかり持ってください。海洋で生き延びた人達の話によると、過酷な状況でも救助を待って、気をしっかり持っていた人が、最終的には救助、生存しています。

救命ボートが見当たらない場合は、その代用になりうる物を探します。救命ゴムボートや、船から出た浮く物（漂流物、がらくた）などが挙げられます。

助け合うことの重要性

- 生き延びるためには、お互いに助け合ってください。
1人では、生き延びられないこともあります。
- 他の人と一緒にいるようにしてください。
士気を維持でき、お互いに助け合うことができます。

以上

Q & A

Q 大型客船のデッキからなど高い場所から水に飛び込む最良の方法は？

A 高い場所から飛び込まないでください。その場所から飛び込みやすいと思っても、水に近い場所を探してください。20メートル以上の高さから水に飛び込むと、時速約80kmの速さで水にぶつかることになり、水がコンクリートのようになるので、重傷を負ったり、死に至ることもあります。

Q 救命ボートが無い場合、どうしたら良いですか？

A 木片などの浮かぶ物につかまってください。そして、海がさほど冷たくない場合は、救命胴衣を着けて、海に飛び込んで良いです。

Q 水に囲まれて、大型客船内に閉じ込められた場合は、どうしたら良いですか？

A 今いる場所に水が入ってくる前に、出口を探します。窓があれば、壊して脱出してください。

Q サメなどの生物が水中にいる場合は、どうしたら良いですか？それでも、救命ボートに飛び乗ったほうが良いですか？

A どちらが良いか考えてみてください。船と一緒に沈むか、救命ボートで生き延びるチャンスを掴むか。救命ボートに乗っている人をサメが襲うことは、あまりありません。救命ボートに乗り込んで命をつなぐほうが、大いに良いはずです。

Q 水に入らなければならない状況であれば、浮いているものに向かって泳ぐほうが良いですか？それとも、できるだけ長く船に残っていたほうが良いですか？

A 救命ボートなどの浮かんでいる物に移動したほうが良いです。もし、沈没する船が渦潮を作っているようならば、そこから離れてください。

Q 沈没しかけている大型客船から飛び降りるしかない場合、どこから飛び降りるのがベストですか？

A 危険にさらされないよう、水に近い場所から飛び降りてください。できれば、怪我をしないようにするため、ゆっくりと水に入ってください。

Q 大型客船のプロペラに向かって、船の救命ボートが動いているようならば、どうしたら良いですか？また、サメがいたらどうしたらよいですか？

A 他のボートに飛び移ってください。

Q 大型客船が沈む時に、渦潮を作りだしますが、救命ボートに乗り込んだほうが良いのでしょうか。それとも、できるだけ早く、大型客船から離れるために泳いだほうが良いのでしょうか？

A 救命ボートに乗り込んでください。渦潮に引き込まれそうになったら、何かにつかまることもできます。

Q 大型客船での旅をする前に準備すべきことはなんですか？

A 真空、または、防水パックした非常食やペットボトルの水、基本的な救急キット、暖かく快適な服を持って行ってください。

Q 乗っている大型客船が転覆したら、どうなりますか？

A 空中に船体が飛び出した後、水中に沈んでいきます。その際、水の渦を作って沈むので、船から脱出し、近寄らないようにしてください。

Q 幼児や子供と一緒にだと、どうしたらよいですか？

A まずは、自分がライフジャケットを着てください。そして、子供にもライフジャケットを着せてください。可能であれば、救命ボートに乗る時や、脱出する際に、一列に手をつなぐように指示してください。



2018年3月作成

編集者：国際条約に対応する船員訓練等に関する
調査研究専門委員会

協力機関：公益財団法人 日本海事センター

資料提供：一般社団法人 日本防災教育訓練センター
代表理事 サニー カミヤ氏

発行所：



一般財団法人 海技振興センター
<http://mhrij.org/>

〒102-0083

東京都千代田区麹町 4-5 海事センタービル 5 階

TEL 03-3264-3871 FAX03-3264-3808